

吾々は二たび惨敗の苦い経験を嘗めなければならぬ。三たび又立ち上る準備の爲めに、二たび又こゝに降伏しなければならぬ。新聞職員の整理は、吾々の正直な正政法によつては、到底陥るべくもない。吾々は更に奇謀法を講じなければならぬ。茲に、再度の惨敗の顛末を記して、一般労働者諸君に事の真相を報じ、重ねて同情者諸君及び後援者諸君に深く恥ぢ且つ深く謝する。

大正九年十月十五日

新聞印刷工組合 正 進 會

### やまとの紛糾

やまと新聞の回答は既記の如く十三日にして、同社の代表者尋村編輯監督は要求を拒絶したるのみならず、其首魁者と認むべきものの誠首を發表したり、爲に大事なく解決すべしと目せられたる同社工場の繋争は意外の紛糾を來すに到れるなり。元來同社工場の職工等は同社は他の大新聞との競争上、その經營甚だ困難なるべきを想像し居れば、職工代表者は要求を提出するに當り、「此の要求はつき合ひで止むを得ぬことなれば容認せられざるも苦しからず」とまで附言したりしなり、然るに同社が拒絶の回答をなすと共に重要なるもの、誠首を發表したるため、要求に關して比較的冷淡なりし職工等まで太く感情を激動せしめたり。加ふるに萬朝職工及び讀賣を去れる職工等の激勵ありて遂に同日の植字、文選、印刷の各部職工等の連袂退場となり、同日の夕刊及十四日の朝刊の刊行覺束なき状態に陥りたり、されど聯盟協會としては此の最後の戦に於てやまとを休刊せしむるが如き事あらば聯盟の效力を疑はしむる大問題なれば、必死に狂奔し他社より死型を搬入して急に應じ危く休刊を免れたり。退場者中には所謂軟派なるもの尠からざれども、外部より應援の力に牽

制せられて復歸し得ず、大部分引續き罷業したれば同社は東京府を通じ東京工藝學校の生徒を借り受け、或は埼玉地方より少數の印刷工を驅り來るなど辛じて朝夕刊を刊行したるが此の應急所置を以て何時まで繼續し能はず、聯盟協會は東京毎日の某氏を通じて東洋印刷職工（約三十名と聞く）を其の雇主に關することなく個々に契約して臨時雇となし十月下旬に及びたるが其の經費に於て非常の損失なるに拘はらず能率甚だ低く、經營者側も困じ果て、一時四十餘名の解雇を宣言したるに拘はらず遂に十二名を無條件にて復歸せしめた。

而して國民、中外商業、都新聞には動搖なく、其他の新聞工場に於ては職工等は所屬新聞社の經濟状態の不如意なることを知りて動かさず、只管運動を開始せる各工場の成功を祈り、他働的に自工場待遇の向上せらるゝを希へり。

### 戦ひの跡を見て

かくの如くして正進會の運動は聯盟協會のために一蹴せられ、起ち能はざる惨敗に終りたる如く見ゆるも、實質上の收穫少からざるものありしこと認めざるべからず。即ち第一に萬朝報に於て要求を貫徹したること、第二は正進會の運動を原因として聯盟協會より萬朝報を離脱せしめたること第三は八時間二部制は之を認め各社適宜施設するに決したること、第四は各社を正進會の運動の真相を秘した